

ナミビア月報

(2020年6月)

在ナミビア日本国大使館

【内政】

- 大統領施政方針演説
- 大統領, SWAPO 新本部建設費用はローンによらない旨説明
- 選挙管理委員長, 11月の州・地方議会議員選挙は予定どおり

【外交・対外関係】

- UNDP, 新型コロナウイルス対策支援物資の寄贈
- 南京市からウイントフック市に対するマスク寄贈
- 米国ミネアポリス市における黒人男性死亡事案に関する非難声明
- 大統領, トルドー加首相と電話会談
- 江西省からオシャナ州に対する新型コロナ対策支援物資の寄贈
- ナミビアのHIVエイズ対策, 3つの90目標達成
- トルコ及びアラブ首長国連邦(UAE)に大使館開設計画
- ヴェナーニPDM党首, 日本大使を表敬
- 大統領, チャクウェラ・マラウイ新大統領に祝意メッセージ
- 日本, WFPを通じ干ばつ被災者を支援

【経済】

- エアー・ナミビアの清算について
- ナミビア中央銀行, Repo レートを4%に引き下げ

【その他】

- 新型コロナウイルス感染者は25人(累計:1日現在)に
- マラリア感染者11, 598人, 死者32人に
- 結核による死者148人(2019年)
- ナミビア, ベスト道路ランキングで4年連続アフリカ大陸トップ10に
- 新型コロナウイルス感染者は150人(累計:28日現在)に
- 新型コロナウイルス感染者は183人(累計:29日現在)に

【内政】

●大統領施政方針演説

4日, ガインゴブ大統領は, 国民議会において施政方針演説を行った。大統領は, これ

までの成果として、貧困率が1994年70%であったものが2018年には18%へと大きく改善していること、住宅不足の改善は引き続き重要な課題であるが（2018年時点で30万戸が不足）ハランベー繁栄計画（HPP: Harambee Prosperity Plan(ガインゴブ大統領が発表した2016～2020年開発計画)）の下、2万戸の住宅建設目標に対し1万6,000戸の住宅建設を達成した旨等説明。また、経済について、大統領は、ナミビア経済は2016年以降逆風を経験している旨述べ、干ばつにより食糧不足に直面していること、加えて、現下の新型コロナウイルスの影響から更なる課題を抱えている旨言及。また、大統領は第2期政権（2020～2024年）において経済回復に向け開発計画を促進する目的で第2次ハランベー繁栄計画（HPP2）を策定中である旨述べた。同第2次ハランベー繁栄計画は2019年の総選挙の際のSWAPO マニフェストや「経済成長に関するハイレベル・パネル」からの提言を踏まえて策定中であるが、財政安定化、経済の構造改善、公共部門の改革、生産性向上に焦点を当てている。なお、今次、大統領施政方針演説に際しては、腐敗対策に高い関心が寄せられ、現職2閣僚の逮捕に及んだ「フィッシュロット」（注：漁獲割り当てに係わる不正疑惑）に関する野党側からの質問に対しては、大統領はフィッシュロット事案については政権として干渉する考えは無く、三権分立の立場から司法の判断に任せる旨述べた。（5日付ナミビアン紙1面、ニューエラ紙1面）

●大統領、SWAPO 新本部建設費用はローンによらない旨説明

ガインゴブ大統領は、4日の国会における施政方針演説の質疑の際、野党人民民主運動（PDM）のヴェナーニ党首からの質問に答え、SWAPO 新本部の建設費用については、如何なる金融機関からの借入れも予定していない旨説明した。同新本部の建設費用は730百万ナミビアドルかかるとも言われており、同建設は中国企業Unik Construction(ウォルビスベイ～スワコプムント道路建設（10億ナミビアドル）を落札した企業）が落札し、昨年工事が開始されている。また、同SWAPO 本部建設費用は当初400百万ナミビアドルと見込まれていた。大統領は、建設費用のうち400百万ナミビアドルについてはSWAPOが運営する企業収入から、また30百万ナミビアドルは党員からの寄付金を予定している旨述べているが、残りの300百万ナミビアドルの手当については説明していない。SWAPOはKalahari Holdingsを有しており、その下で6つの子会社を運営している。更に、MultiChoice Namibia等の合弁会社を所有し、そうした企業からの配当収入がある。また、SWAPOは2015年より国からの政党助成金を年間100百万ナミビアドル受けてきている。（8日付ナミビアン紙1面）

●選挙管理委員長、11月の州・地方議会議員選挙は予定どおり

Notemba Tjipueja 選挙管理委員会(ECN)委員長は、11月に予定されている州・地方議会議員選挙について、新型コロナウイルスの影響に鑑み延期することを検討すべきとの一部野党等からの意見に対し、同選挙を延期する場合には追加的な予算支出が必要となることや法律改正を伴うこともあって、現時点では延期は検討されていない旨述べた。なお、昨

年の大統領・国民議会選挙に関連して、検証可能な有権者監査ペーパートレイル機能を持たない電子投票機の使用は違法であるとの最高裁判所の判断もあって、選挙管理委員会としては、来る州議会・地方議会議員選挙においては、電子投票機は使用せず、投票用紙記入方式とすることとしている。(22日付ナミビアン紙3面)

【外交・対外関係】

●UNDP 新型コロナウイルス対策支援物資の寄贈

先週、UNDP はナミビア政府に対し、総額 10 万米ドルの新型コロナウイルス対策支援物資を寄贈、アレクシス UNDP 次席代表からナンゴンベ保健・社会サービス省次官に対し、同支援物資の引き渡しが行われた。支援物資は、赤外線サーモガン：4 台、55 インチ TV モニター：1 台、使い捨て手袋：18, 400 双、消毒液：10 リットル、除菌液：20 リットル、石けん液：100 リットル。(2日付ナミビアン紙4面)

●南京市からウイントフック市に対するマスク寄贈

1日、南京市からウイントフック市に対し、30, 000枚のマスクが寄贈された。同引き渡し式には、張 (Zhang) 中国大使、カイヤモ (Kaiyamo) ・ウイントフック市議会議員他が出席した。(3日付ニューエラ紙6面)

●米国ミネアポリス市における黒人男性死亡事案に関する非難声明

2日、ナミビア政府は、ナンディ＝ンダイトワ副首相兼国際関係・協力大臣名で、米国ミネアポリスにおける警察官による黒人男性 (ジョージ・フロイド氏) 殺害事案に関し、非難声明を発出した。同声明において、「ナ」副首相兼国際関係・協力大臣は、30 年前まで、制度化された組織的人種差別の犠牲者であったナミビア政府及びナミビア国民は、米国警察によるジョージ・フロイド氏の残忍な殺害に対し、深い怒りを表明し、これを非難する旨述べ、また、人種差別は人類に対する犯罪であり、この世の、どこ、どのような社会においてもあってはならず、我々は、米国政府に対して、特にアフリカ系アメリカ人や他のすべてのマイノリティを含むすべての市民の権利と人権が法の下で守られ、尊重され、保護されることを保証するため、あらゆる努力を尽くすことを求める旨述べた。(3日付ニューエラ紙3面)

●大統領、トルドー加首相と電話会談

1日、ガインゴブ大統領は、トルドー加首相と電話会談を行ったところ、ガインゴブ大統領からの招待に対しトルドー首相は、新型コロナウイルス終息後にナミビアを訪問したい旨の意向を表明した。右は、ハンガリー大統領府報道官の説明による。また、ガインゴブ大統領は、ナミビアは国際協力の場において高中所得国と分類されていることから、無償資金協力や借款を受ける際に影響を受けているとして、ナミビアの同分類に係る懸念について問題提起した。これを受け、トルドー首相は、かかる問題は、アフリカ

に限ったものではなく、世銀やIMF等と議論してみたい旨応答した。更に、トルドー首相からは、次回国連安保理非常任理事国選挙について、加は立候補をしており、ナミビア政府の支持を得たいとの要請があった。

なお、ガインゴブ大統領は、2018年に加を訪問している。(4日付ニューエラ紙5面)

●江西省からオシャナ州に対する新型コロナ対策支援物資の寄贈

先週、中国・江西省からオシャナ州に対する新型コロナ対策支援物資が寄贈され、江西省代表の Huang Hongtao 氏と Elia Irimari オシャナ州知事との間で、引き渡し式が行われた。支援物資は、マスク：5,000枚、手袋：500双、消毒液 (Hand Sanitiser)：72個を含む総額10万ナミビアドル相当。(8日ナミビアンサン紙4面)

●ナミビアの HIV エイズ対策、3つの90目標達成

3日、ガインゴブ大統領は、国民議会における施政方針演説の中で、ナミビアは HIV エイズとの闘いにおいて、国連の設定した「3つの90目標」即ち、(1) HIV エイズ感染者の90%以上が診断を受け感染を自覚すること、(2) 診断を受けた感染者の90%以上が抗レトロウイルス治療 (ARV) を受けること、(3) ARV 治療中の感染者の90%以上がウイルスを抑制できていること、をほぼ達成できる状況にある旨説明した。ナミビアにおける同3つの90目標の達成度はそれぞれ(1)94%(2)96%(3)95%である。また、大統領は、同目標の達成は、ナミビアと米国の協力プログラムにより、即ち米国による Pepfar (President's Emergency Plan for AIDS Relief) の支援を通じて可能となったものである旨述べた。ナミビアにおいては、2005年に米国による Pepfar プログラムが開始され、これまでに、約12億米ドルの支援が実施されてきている。(10日付ニューエラ紙3面)

●トルコ及びアラブ首長国連邦 (UAE) に大使館開設計画

8日、ナンディンダイトワ副首相兼国際関係・協力大臣は、国民議会での国際関係・協力省関連予算説明において、トルコ及びアラブ首長国連邦 (UAE) に大使館を設置する計画である旨説明した。(12日付ナミビアン紙3面、ニューエラ紙4面)

●ヴェナーニ PDM 党首、日本大使を表敬

24日、マクヘンリー・ヴェナーニ人民民主運動 (PDM: Popular Democratic Movement (注) 野党第一党) 党首一行は、日本大使館に原田大使を表敬訪問した。ヴェナーニ党首は、職業訓練体制等について日本から学ぶところがある、また、二国間の貿易拡大が必要である等呼びかけた。(26日付ナミビアン紙5面)

●大統領、チャクウェラ・マラウイ新大統領に祝意メッセージ

29日、ガインゴブ大統領は、28日に就任したチャクウェラ・マラウイ新大統領に対し

て祝意のメッセージを発出した。同メッセージで、ガインゴブ大統領は、貴方（チャクウェラ大統領）とともに更に二国間協力を深化、強化するために緊密に協働し、また、地域のそしてアフリカ大陸の開発アジェンダを前進させて行くことを楽しみにしている旨述べた。我々は、マラウイの兄弟姉妹が奪うことのできない民主的権利を平和裏に、かつ成功裏に行使したことを、また、それによりCovid-19パンデミックの困難な状況の中で選挙を終了したことを称賛する、真に、選挙の成功は、民主主義がマラウイ及びSADCの人々の政治文化の不可欠な礎石として成熟したことを示していると述べた。（30日付ニューエラ紙1面）

●日本、WFPを通じ干ばつ被災者を支援

日本政府は、WFPを通じて干ばつ被災者支援を実施した。26日、首相府において同支援に係る引き渡し式が実施され、原田大使、クーゴングルワ＝アマディーラ首相及びサンコーWFP代表他が出席した。同支援は、総額70万米ドル（1,120万ナミビアドル）で、メイズ、豆類、植物油、塩等の必需品を深刻な干ばつ被害を被っている東カバンゴ州及び西カバンゴ州の被災者に配布するものである。同引き渡し式において、原田大使は、2011年の東日本大震災で大きな被害を受けた際、日本はナミビア政府、国民より心温まるメッセージ及び支援をいただいた、今回その一部でも恩返しができ喜ばしい旨述べた。（30日付ニューエラ紙6面）

【経済】

●エアー・ナミビアの清算について

4日、ガインゴブ大統領は、国民議会における施政方針演説に際して、エアー・ナミビアの再建問題に関する質問に応え、政府として、赤字を続ける国営エアー・ナミビアをこれ以上救済し続ける余裕はなく、何らかの措置を取らざるを得ない、清算せざるを得ないとも考える旨述べた。2019年10月、20億ナミビアドルの救済案が政府財務省によって拒否されて以降、エアー・ナミビアは大幅な運営コストの削減を強いられてきており、2019年11月には何らかの支援策が実施されなければ、オペレーションを停止せざるを得ないと言われていた。今週、エアー・ナミビアは、海外のナミビア人帰国用のチャーター機の運航について、当面停止する旨発表している。（8日付ナミビアンサン紙経済面1面）

●ナミビア中央銀行、Repo レートを4%に引き下げ

ウアングタ・ナミビア中央銀行副総裁は、17日、Repo レートを4%に引き下げると発表した。本年初めには6.5%であったRepo レートは段階的に引き下げられ、4月15日に4.25%であったものが、今回4%と歴史的な最低水準となった。これは、新型コロナウイルスの影響から低迷する経済活動の活性化を狙ったものである。因みに、南アフリカのRepo レートは3.75%である。なお、ナミビアの本年5ヶ月間の平均インフレ率は2.1%である。これに対し、2019年同期の平均インフレ率は4.4%である。（18日付ナミビアン紙11面、ニ

ニューエラ紙経済面 9 面, ナミビアンサン紙経済面 1 面)

【その他】

●新型コロナウイルス感染者は25人（累計:1日現在）に

1日, シャングラ保健・社会サービス大臣は, 25人目の新型コロナウイルス (Covid-19) 感染者が確認された旨発表した。25人目の感染者は, 32 歳のナミビア人女性で, 3 月末にバスでケープタウンに旅行し, 5月29日に空路でケープタウンから帰国, 検査の結果, 陽性であることが判明した。なお, 25人中16人は回復している。(2日付ナミビアン紙2面, ニューエラ紙3面)

●マラリア感染者11, 598人, 死者32人に

11日, シャングラ保健・社会サービス省大臣は, 2019年12月から今日までにマラリア感染者は11, 598人, 死者は32人と報告されている旨公表した。昨年に比べ, マラリア感染者は増加しており, 特に感染者が多い州は東カバンゴ州, 西カバンゴ州, ザンベジ州オハングウェナ州である。(12日付ナミビアン紙3面)

●結核による死者148人 (2019年)

保健・社会サービス省は, 2019年の結核による死者は148人となっている旨公表した。2019年中の結核患者のうち87%については治療が成功している由。なお, 2018年中の結核による死者は619人となっている。また, 同省関係者は, 2020年末までに結核感染者数は8, 000~9, 000人に増加することとなろうと述べている。(22日付ナミビアン紙3面)

●ナミビア, ベスト道路ランキングで4年連続アフリカ大陸トップ10に

世界経済フォーラムの2019年道路インフラレポート (Quality of Road Infrastructure Report for 2019) によれば, ナミビアは世界で21番目にランクされ, アフリカ大陸では4年連続でトップ10に入った。世界では, フィンランド, 独, マレーシア, スウェーデン等が上位にランクされ, アフリカ大陸については, 南ア, ルワンダ等が上位にある。同ベスト道路ランキングは, 世界141カ国について, その道路インフラの質等12の項目について評価され, ランク付けされるものである。(25日付ニューエラ紙11面)

●新型コロナウイルス感染者は150人（累計:28日現在）に

28日, 保健・社会サービス省は, 新型コロナウイルス (Covid-19) 感染者は累計で150人となった旨発表した。なお, このうち105人はエロンゴ州 (ウォルビスベイ, スワコブムントを抱える州) で, 更にそのうち100人はウォルビスベイで確認されている。また, シャングラ保健・社会サービス大臣によれば, 150人のうち22人は回復しており, これまでに8, 428人が検査を受け, 現在868人が隔離施設に収容中であり, 他方で, 2, 905人が隔離施設から解放されている。(29日付ナミビアンサン紙1面, ニューエラ紙1面)

●新型コロナウイルス感染者は183人（累計:29日現在）に

29日までに新型コロナウイルス（Covid-19）感染者は累計で183人となった。このうち24人が回復している。（30日付ナミビアンサン紙1面）

【当館注】30日、保健・社会サービス省は、新型コロナウイルス（Covid-19）感染者が新たに20人増え203人（累計）となった旨及びそのうち24人が回復している旨発表した。

（了）